

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：12102

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H05444

研究課題名（和文）西アジア先史時代における生業と社会構造

研究課題名（英文）Subsistence and social structure in the prehistoric southwest Asia

研究代表者

三宅 裕（Miyake, Yutaka）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：60261749

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 95,900,000円

研究成果の概要（和文）：西アジアの新石器時代を対象に、多岐にわたる資料の集成・分析をおこなった結果、先土器新石器時代には大型の公共建造物やシンボリズムの発達にみられるように、儀礼祭祀に大きな社会的エネルギーが投入され、ほかにも奢侈品などの特殊生産の発達、長距離交易ネットワークの形成、物資管理の発達など、都市的様相を先取りするような社会の複雑化が進展していた状況が明らかになった。しかし、農耕社会が確立された先土器新石器時代末期になると、公共建造物は見られなくなり、特殊生産にも翳りがみられるようになるなど、新石器時代の社会の複雑化が都市社会への形成へダイレクトにつながるものではないことも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西アジア新石器時代の初頭に、儀礼祭祀と深く関係する大型の公共建造物が造営され、萌芽的な工芸の専門化や長距離交易網の発達などが明らかになったことで、その時代に都市的様相を先取りするような社会の複雑化の動きがあったことが確実となった。しかも、その社会ではまだ農耕牧畜による食糧生産が始まっていなかったことも確認され、食糧生産の開始が社会を大きく変容させたとする従来の考えではうまく説明できないことや農耕社会の成立後に社会の複雑化が一旦後退してしまうことが明らかになったことで、社会の複雑化を進展させる要因について経済だけでなく、イデオロギーや社会組織の面にも光を当てる必要があることを示すことができた。

研究成果の概要（英文）：The comprehensive collection and analysis of a wide range of data from the Neolithic period in southwestern Asia revealed that a significant amount of social energy was dedicated to ritual activities, as evidenced by the construction of large communal buildings and the proliferation of symbolism in the Pre-Pottery Neolithic period. This was accompanied by the emergence of specialized prestige goods production, the establishment of long-distance trade networks, and the evolution of goods management, all of which contributed to social complexities that foreshadowed the urbanization of the following periods. However, a shift occurred in the late Pre-Pottery Neolithic, with the establishment of farming societies. This transition was marked by the disappearance of communal buildings and a decline in specialized production.

研究分野：西アジア考古学

キーワード：西アジア 先史時代 都市的様相 社会の複雑化 長距離交易 工芸技術

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

西アジアの新石器時代は農耕・牧畜による食糧生産が開始された時代と定義され、それにより食糧生産力が大きく向上し、社会的余剰の蓄積が進むことによって複雑な社会が形成され、やがてメソポタミアにおいて都市が誕生すると説明されてきた。こうした歴史認識はマルクス主義的唯物史観の影響を強く受けたものであると言えるが、もはや「常識」として私たちの思考の中に強く刷り込まれていると言っても過言ではない状況にあった。

しかし、近年の考古学的調査の進展によって、新石器時代の初頭には儀礼祭祀と関係する大型の公共建造物が造営され、高度な工芸技術や専門的生産、シンボリズムの発達、長距離交易ネットワークの形成などを示す資料が蓄積されつつあり、しかもその時期にはまだ農耕・牧畜に基盤を置いた社会は成立していなかったことがわかってきたことから、そうした社会の複雑性は農耕・牧畜に依存することなく形成された可能性も考えなくてはならなくなっていた。

### 2. 研究の目的

古代西アジアにおける都市の本質に迫ろうとする領域全体の研究目的の中において、本研究では都市が出現する以前の先史時代を対象とし、特に新石器時代においてすでに「都市的様相」を先取りするかのよう状況が認められることに注目し、その実態を解明することにより、後の都市社会との比較を通じて、都市という存在についての理解を深めることを目的としている。具体的には、新石器時代を対象に、社会を統合する装置として重要な役割を果たしたと考えられる公共建造物の検討、奢侈品を中心とした工芸生産の発達、長距離交易ネットワークの形成、物資管理の様相の解明、狩猟採集段階も含めた生業のあり方や食糧貯蔵行為などについて検討し、社会の複雑化という観点から新石器時代の社会の様相の解明に取り組む。

### 3. 研究の方法

#### (1) 社会の複雑化に関する資料の集成・分析

新石器時代の「都市的様相」の実態を把握し、当時の社会のあり方と関連させながらそうした様相が現れてくる背景やその意義について追究するために、特に以下の4点に焦点を当てて研究を進めた。大規模集落(メガサイト): 人口規模の推定や出現・消失の時期の検討をおこなうとともに、集落構造など大規模集落の実態を解明する。公共建造物と儀礼祭祀: 社会を統合する装置として重要な役割を果たしたと考えられる公共建造物について、そこで執り行なわれていた儀礼祭祀の様相やシンボリズムの発達、労働力の組織的な動員のあり方について検討する。

物資の生産・流通・管理: 打製石器や石製品などの専門的な工芸生産、黒曜石や海産貝類などの長距離交易の様相、スタンプ印章を用いた物資管理の分析を基に、新石器時代の社会のあり方に迫る。生業の研究: 農耕・牧畜の開始やその展開に加え、前段階の狩猟採集までも視野に入れ、社会的余剰の生成や饗宴の痕跡など、生業と社会の関係を解明する。これらのテーマを本研究に参画する研究者がそれぞれ分担して研究を進め、研究集会等を通じて組織内でその成果の共有を図った。

#### (2) フィールドワークの実施

本研究の目的に関係する新たな資料を獲得するために、トルコ、イラク、アルメニアなどにおいて新石器時代の遺跡の発掘調査と資料調査を実施した。トルコでは先土器新石器時代初頭の遺跡であるチャクマックテペにおいて発掘調査を実施し、新たに大型の公共建造物を発見するとともに、出土した動物骨や植物資料の分析をおこない、西アジア新石器時代の生業や社会のあり方に関する新たな資料を蓄積させた。イラク・クルディスタンのジャルモ遺跡では、肥沃な三日月地帯東部の新石器化の研究を進展させることを目的に、発掘調査、古環境調査などのフィールドワークを実施した。その結果、ジャルモ遺跡の新石器時代集落では、天水とケスタ地形による湧水を利用した複雑な農耕を行っていたこと、土偶や石製容器などを盛んに製作し、それらを利用しながら村落を運営していたことなどが明らかになった。

### 4. 研究成果

#### (1) 大規模集落

メガサイトと呼ばれることもある新石器時代の大規模集落については、西アジア各地の事例を集成することにより、従来からその存在が注目されてきた南レヴァント地域以外にも、北レヴァントやアナトリア高原など、比較的広い範囲に分布していることが明らかになった。また、時期的にも、従来考えられていたよりもさらに古い時期にまで遡る事例が存在することが明らかになり、こうした人口規模の大きい大規模集落が、必ずしも農耕社会の成立を基盤として形成されたものではなかった可能性を考えられるようになった。また、北レヴァントやアナトリア高原では、大規模集落が土器新石器時代になっても継続して認められ、地域による違いも大きいことが判明した。特に、北レヴァントにおける大規模集落では、土器新石器時代になっても大型の尖頭器が消失せずに残り、これらの石器を儀礼祭祀に関わる儀器として捉えた場合に、大規模集落が継続する背景には、狩猟採集民的なイデオロギーや社会システムの維持が深く関係している

可能性を考えられるようになった。

## (2) 公共建造物と儀礼祭祀

### a) 公共建造物

新石器時代の公共建造物と考えられる建物は、これまで比較的限定された地域(トルコ南東部)でのみ確認されていた。しかし、近年はその事例が増加しつつあり、実際に調査に携わったハッサンケイフ・ホユック遺跡やチャクマックテペ遺跡の事例を中心として、広く類例を集成し比較検討をおこなった。その結果、ティグリス川上流域、南レヴァントからアナトリア高原まで、特に西アジアの西部を中心に分布がみられることが確認され、そうした地域の特に新石器時代前半にはそれぞれの集落に一般的に認められる施設であったことが判明した。集落の中に基本的に1基のみ認められるこうした建物は、大型の石柱、浮彫りや彩色による装飾、特殊な床面などをともなうことから、儀礼祭祀に深く関係する建物であることはほぼ間違いない。また、トルコ南東部のギョベクリ・テペ遺跡やカラハンテペ遺跡のように、こうした特別な建物が山地上に集合的に造営された祭祀センター的性格をもった遺跡の存在も確認されている。さらに、アイン・マラッハ遺跡のように、新石器時代以前の遺跡にも特別な建物が造営されていたと考えられる事例があることが明らかになり、その伝統は地域によっては新石器時代以前にまで遡る可能性がでてきたことになる。

こうした公共建造物は新石器時代の社会を統合する重要な装置となっていたと考えられ、特に特徴的なT字形をした石柱は、全体で人間の姿をした「存在」を表象したものであることが明らかになり、偉大な祖先の像であった可能性も考えられるようになった。それが2基建物の中央に据えられている事例が存在することから、この建物でおこなわれていた儀礼は基本的に祖先祭祀としての性格をもったものであった可能性も考えられる。そうであるならば、この時代には共通の祖先をもつ血縁の集団がすでに形成されていたことを想定できるようになり、特別な建物や祭祀センターを造営するために必要な組織的な労働力の動員に大きな役割を果たしていたと想定できるようになった。

トルコでの調査では、新石器時代初頭に年代づけられる規模の大きな公共建造物が検出され、儀礼祭祀に大きな社会的エネルギーが注がれていたことや社会の複雑化がある程度進展していたことを確認することができた。この建物はギョベクリ・テペ遺跡に先行する時期のものであり、集落の中に公共建造物が造営される集落構造が、新石器時代初頭にまで遡ることを明らかにした点で大きな意義があるとともに、T字形石柱やベンチを備える、ギョベクリ・テペ遺跡に代表される定型化の進んだ公共建造物が形成される過程を示す資料としても貴重なものである。

また、公共建造物の消長についても検討し、農耕・牧畜に基づく食料生産社会が確立されたと評価できる先土器新石器時代の末期になると、公共建造物の造営が途絶えてしまうことも確認された。一見すると逆説的とも映るこの現象からは、新石器時代の公共建造物を生み出す背景となっていたものが、狩猟採集民的な世界観やイデオロギーに基づくものであったと評価できるようになり、農耕社会の成立とともに儀礼祭祀の体系を含め、大きな社会的変化がおこっていたことを示唆していると考えられるようになった。

### b) シンボリズムの発達

南東アナトリアの新石器時代遺跡では、石や骨などを媒体として動物像を中心とする図像を表現するシンボリズムが顕著に発達していたことが知られている。そうした資料が数多く得られているハッサンケイフ・ホユック遺跡の資料を中心に、広く新石器時代のシンボリズム関連資料を集成し、その具体的な内容や地域的特色について検討した。その結果、ガゼルやヤギなどの狩猟対象獣よりも、ヘビ、サソリ、鳥(おそらく猛禽類)、ヒョウ、キツネなどの動物が数多く描かれていることが判明し、当時の狩猟採集民的な世界観と深く関係している可能性が明らかになった。また、ティグリス川上流域ではサソリの図像が多く認められるのに対し、ユーフラテス川水系に位置づけられるシャンルウルフア周辺地域ではキツネやヒョウが重要な位置を占めているなど、地域的な違いも認められることも確認された。さらに、ギョベクリ・テペ遺跡ではキツネが、カラハンテペ遺跡ではヒョウが重要な位置を占めていることから、同じシャンルウルフア周辺に位置する遺跡であっても、シンボリズムの内容には違いがみられることも判明した。これは、おそらく社会組織や集団の違いを反映しているものと考えられ、同一地域においても出自などを異にする複数の社会組織が形成されていたことを示す証左となるものと思われる。

## (3) 物資の生産・管理・流通

### a) 海産貝類製ビーズ

西アジアにおいて、貝殻に穿孔して製作された貝製ビーズは中期旧石器時代から認められ、後期旧石器時代になるとまとまった数が出土する遺跡がみられるようになるとともに、利用される貝の種類も増加していく。それ以降も貝製装身具は継続的に使用され、地中海や紅海の沿岸部だけでなく、広く内陸部の遺跡まで流通するようになる。産地をある程度特定できる海産貝製ビーズは、遠隔地の希少な物資の流通の状況を知る手掛かりとなるもので、続旧石器時代から先土器新石器時代までの遺跡から出土した資料を集成し、比較することによって、物資流通の様相やその時期的な変化について検討した。

続旧石器時代は「ツノガイの時代」と言えるほど、ツノガイ類の利用が目立つようになり、特にその後期に相当するナトゥーフ期にピークを迎える。ツノガイには地中海に生息する種類と紅海に生息する種類があるが、この時期には入手が比較的容易な近傍の資源を利用していた状況が明らかになった。おそらく、直接海岸に向いて、資源を採取していたものと思われる。後続する先土器新石器時代 A 期になると、ツノガイ類の割合はやや減少するものの、利用される貝の種類には大きな変化は認められないが、地中海から約 500 km も内陸に位置する遺跡からも海産貝類製のビーズが出土するようになるなど、その流通範囲が大きく拡大する。その背景には、遠隔地の希少物資の入手を強く希求する力、すなわちその保有によって権威を示すような必要性が社会に生じていたことが考えられる。先土器新石器時代 B 期になると利用される貝の種類に大きな変化が生じ、ユーフラテス川中流域では紅海産のタカラガイ類が、南レヴァントでは海産二枚貝類が卓越するようになり、ツノガイ類の利用はほとんど認められなくなる。これは旧石器時代から継続されてきた貝利用の大幅な転換であると言え、大きな画期として捉えることができる。特に、紅海産のタカラガイ類の流通範囲が大きく拡大することは、交易ネットワークが強化され、さらに拡大したことを示している。さらに付け加えるならば、土器新石器時代になると海産貝類をはじめとして遠隔地の物資の流通は一旦後退してしまうような状況が認められることも興味深く、公共建造物の消失などの社会的変化と連動していた可能性も考えられる状況にある。

#### b) 石器製作の専門化

古代西アジアの都市には、都市の内部あるいは周辺に、様々な製品を製作する専門工房が存在していたことが知られている。言うならば都市の住民は消費者であり、生活財の多くを自ら生み出すことなく、専門工房で製作された物を利用していたことになる。したがって、専門工房の出現は、都市的社会的形成を暗示することになる。石器製作に関しては、自家消費を超える物量の石器が製作された専門工房の出現は、少なくとも前 4 千年紀初頭にまで遡ると指摘されてきた。南東トルコのいくつかの遺跡では、カナン石刃と呼ばれる特徴的な石器の製作が行われ、その石刃は北メソポタミアへ搬出されていたことも確認されている。カナン石刃の製作には、専門工房において生産されていること以外にも、石器製作の専門化の条件を考える上で重要な特徴が 4 つ認められ確認できた。第 1 に、特別な石材（フリント）が用いられていることで、これは規格的な製品を大量に生産するために、均質で良質な石材が求められたためと考えられる。第 2 に、高度な製作技術が用いられていることで、石刃の剥離に強い圧力のかかる槌子を用いた特殊な押圧剥離技法が採用されていた。第 3 に、製品の規格性が極めて高いことで、製作された石刃はまっすぐで、大きさも一定のサイズを保っている。そして最後に、最終的製品の専門性が高いことで、これは言い換えるならば、製品の用途が極めて限定されていることである。カナン石刃は、もっぱら鎌刃や櫛刃といった農耕に関わる作業に用いられ、その他の用途に使われることがほとんどなかった。

こうした紀元前 4 千年紀における専門的石器製作の 4 条件を基にして、それよりも古い時期の石器製作の様相を検討してみたところ、石器製作の専門化は先史時代にまで遡る可能性を推測できることがわかった。その候補としてあげられるのは、前 8 千年紀後半頃に始まったと思われる、ビンギョル産黒曜石を用いた石刃の製作である。黒曜石という産地が限られ入手困難な石材を使い、（おそらく槌子を使った）高度な押圧剥離技法による規格的で長い石刃が生産されている。製作された石刃はカナン石刃と同様に、南方の地域へと運ばれたことも判明している。入手した側で黒曜石石刃がどのような用途に使用されていたのかについては必ずしも明らかになっていないが、サビ・アピヤド 遺跡（PPNB 期：前 8 千年紀後半）のような興味深い事例も確認されている。それは同一の石核から剥離されたと考えられる、ビンギョル産の黒曜石石刃が 21 本まとまって出土したものである。これらの石刃は道具に加工されておらず、持ち込まれた黒曜石石刃は集落内で大切に保管されていた様子が窺える。都市化にしばしば付随すると考えられる工芸の専門化であるが、石器製作をみる限りでは、都市化がはじまるはるか以前、先史時代にまで遡ってその萌芽を確認することができることが明らかになった。

#### c) 黒曜石交易

イラク・クルディスタン地域シャフリゾール平原において、新石器時代の集落であるシャカル・テペ遺跡およびシャイフ・マリフ遺跡において発掘調査を実施し、この調査によって交易を介して搬入されたと考えられる黒曜石製石器資料を得ることができた。その交易の様相を解明するために、西アジア各地の遺跡から出土した黒曜石資料とともに産地同定の分析をおこなった。分析はマンチェスター大学の研究者との共同研究として、ハンドヘルド型蛍光 X 線分析装置を用いて実施し、その結果、黒曜石の遠距離交易ネットワークの実態とその時間的変遷を把握するとともに、この時代の交易活動が果たした社会的・経済的役割の一端を明らかにすることができた。

#### d) 物資管理システムの発達

物資管理システムの発達については、シリアのテル・エル・ケルク遺跡の事例を中心に、新石器時代のスタンプ印章や封泥（印章が押捺された粘土）の資料を幅広く集成するとともに、新石

器時代以降の都市化へと向かう過程における物資管理の状況を文字による記録システムの確立前史という視点から検討が進められた。印章と封泥を用いた物資管理システムがすでに新石器時代に確立されていたことは興味深く、新石器時代の社会のあり方や経済活動の一端を探る手がかりとして重要な意味をもつことが確認された。

#### (4) 生業の研究

動物資料と植物資料に関しては、トルコのチャクマックテペ遺跡やイラクのジャルモ遺跡から新たに得られた資料の分析を進めるとともに、新石器時代の前半期を中心にデータの集成をおこない、経済的基盤の実状について検討した。上記の項目において示した「都市的様相」とも評価できる社会の変化は、新石器時代の初頭から前半にかけて顕著に認められることが明らかになったが、植物資料と動物資料の分析からは、この時期にはまだ農耕・牧畜を営んでいたような証拠は認められないことが確認され、農耕・牧畜による食料生産の開始がこうした社会的変容をもたらしたとは評価できないことが明確となった。これにより、先史時代における「都市的様相」の進展については、生業や経済的視点から論じたのでは十分ではなく、この時期における儀礼祭祀の盛行に象徴されるイデオロギー的側面や社会組織の形成にも注目していく必要があることが確認された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計59件（うち査読付論文 21件 / うち国際共著 18件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Makoto Arimura	4. 巻 57
2. 論文標題 Flint Pressure Blade Technology in the Neolithic Northern Levant: Emergence of Specialized Tool Manufacture of Sickle Elements and Micro-drills	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 63-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jammo, S. and Tsuneki, A.	4. 巻 -
2. 論文標題 The outdoor communal Neolithic cemetery of Tell el-Kerkh, northwest Syria	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the 11th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East. Vol. 2	6. 最初と最後の頁 171-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 常木晃、渡部展也、安間了、板橋悠、宮田佳樹、若狭幸、サリ・ジャンモ、サーベル・アハマド・サーベル	4. 巻 -
2. 論文標題 肥沃な三日月地帯東部の新石器化 イラク・クルディスタン、スレマニ地域チャルモ遺跡の調査 (2021)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第29回西アジア発掘調査報告会報告集(令和3年度考古学が語る古代オリエント)	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 宮田佳樹、板橋悠、常木晃	4. 巻 -
2. 論文標題 ジャルモ遺跡から出土した炭化物付着土器に関する予察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究4 研究成果報告2021年度	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Itahashi Yu, Stiner Mary C., Erdal Omur Dilek, Duru Gunes, Erdal Yilmaz Selim, Miyake Yutaka, Gural Demet, Yoneda Minoru, Ozbasaran Mihriban	4. 巻 136
2. 論文標題 The impact of the transition from broad-spectrum hunting to sheep herding on human meat consumption: Multi-isotopic analyses of human bone collagen at Asikli Hoyuk, Turkey	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Archaeological Science	6. 最初と最後の頁 105505 ~ 105505
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jas.2021.105505	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Osamu Maeda	4. 巻 57
2. 論文標題 Qminas in 1981: Excavations of a Late PPNB to Pottery Neolithic Settlement in Northwest Syria	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 79-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maeda Osamu	4. 巻 8
2. 論文標題 Inefficient practice of flint heat treatment at Hasankeyf H?y?k: An anti-functional view	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Lithic Studies	6. 最初と最後の頁 85 ~ 101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2218/jls.3032	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Carter Tristan, Moir Rose, Wong Todd, Campeau Kathryn, Miyake Yutaka, Maeda Osamu	4. 巻 574
2. 論文標題 Hunter-fisher-gatherer river transportation: Insights from sourcing the obsidian of Hasankeyf Hoyuk, a Pre-Pottery Neolithic A village on the Upper Tigris (SE Turkey)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Quaternary International	6. 最初と最後の頁 27 ~ 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.quaint.2020.09.045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 三宅 裕	4. 巻 -
2. 論文標題 ティグリス川上流域の新石器時代 - ハッサンケイフ・ホユック遺跡とウルス・ダム水没地域の調査 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第29回西アジア発掘調査報告会報告集 (令和3年度考古学が語る古代オリエント)	6. 最初と最後の頁 93-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅 裕	4. 巻 23
2. 論文標題 西アジア先史時代における貝製装身具 - その起源から先土器新石器時代まで -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西アジア考古学	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 常木晃、渡部展也、安間了、辰巳祐樹、サリ・ジャンモ、サーベル・アハマド・サーベル、ラワ・カリム・サリ	4. 巻 -
2. 論文標題 肥沃な三日月地帯東部の新石器化 イラク・クルディスタン、スレマニ地域チャルモ遺跡の調査 (2019・2020)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第28回西アジア発掘調査報告会報告集 (令和2年度考古学が語る古代オリエント)	6. 最初と最後の頁 9-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下釜和也	4. 巻 -
2. 論文標題 考古学からみたメソポタミア銅石器時代と都市化：研究の現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 3 研究成果報告2020 年度	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Itahashi Yu, Ananyevskaya Elina, Yoneda Minoru, Ventresca Miller Alicia R., Nishiaki Yoshihiro, Motuzaite Matuzeviciute Giedre	4. 巻 33
2. 論文標題 Dietary diversity of Bronze-Iron Age populations of Kazakhstan quantitatively estimated through the compound-specific nitrogen analysis of amino acids	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Archaeological Science: Reports	6. 最初と最後の頁 102565 ~ 102565
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jasrep.2020.102565	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hongo, H., Kikuchi, H., Nasu, H.	4. 巻 -
2. 論文標題 Beginning of pig management in Neolithic China: Comparison of domestication processes between northern and southern regions	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Animal Frontier	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumura Shuichi, Terai Yohey, Hongo Hitomi, Ishiguro Naotaka	4. 巻 38
2. 論文標題 Analysis of the Mitochondrial Genomes of Japanese Wolf Specimens in the Siebold Collection, Leiden	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Zoological Science	6. 最初と最後の頁 60-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2108/zs200019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Campbell Stuart, Healey Elizabeth, Maeda Osamu	4. 巻 33
2. 論文標題 Profiling an unlocated source: Group 3d obsidian in prehistoric and early historic near East	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Archaeological Science: Reports	6. 最初と最後の頁 102533 ~ 102533
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jasrep.2020.102533	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Odaka, T., Maeda, O., Shimogama, K., Hayakawa, Y.S., Nishiaki, Y., Mohammed, N.A. and Rasheed, K.	4. 巻 20
2. 論文標題 Late Neolithic in the Shahrizor Plain, Iraqi Kurdistan: New Excavations at Shakar Tepe, 2019	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neo-Lithics	6. 最初と最後の頁 53-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅 裕	4. 巻 -
2. 論文標題 初期定住集落の姿を探る—トルコ、ハッサンケイフ・ホユックにおける発掘調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第28回西アジア発掘調査報告会発表要旨集	6. 最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅 裕	4. 巻 67-2
2. 論文標題 トルコ バットマン県 ハッサンケイフ・ホユック遺跡の発掘調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 考古学研究	6. 最初と最後の頁 74-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安間 了、西山伸一、三宅 裕、常木 晃、横尾頼子	4. 巻 -
2. 論文標題 肥沃な三日月地帯北縁部に分布する新石器時代～鉄器時代遺構の 堆積物柱の元素濃度	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 3 研究成果報告2020 年度	6. 最初と最後の頁 195-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野孝教・古里節夫・倉田恵美子・千本真生・石田温美・常木 晃・三宅 裕	4. 巻 -
2. 論文標題 イラン北東部サンギ・チャハマック遺跡の祭壇に見られる黒色物の地球化学的特徴とその起源物質	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 3 研究成果報告2020 年度	6. 最初と最後の頁 217-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuneki, A., Rasheed, K., Watanabe, N., Anma, R. Tatsumi, Y. and Minami, M.	4. 巻 45 (2)
2. 論文標題 Landscape and early farming at Neolithic sites in Slemani, Iraqi Kurdistan: A case study of Jarmo and Qalat Said Ahmadan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Paleorient	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hongo Hitomi	4. 巻 19
2. 論文標題 Yutaka Tani, <i>God, Man, and Domesticated Animals: The Birth of Shepherds and Their Descendants in the Ancient Near East.</i> Kyoto University Press and Trans Pacific Press, 2017, 217pp.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Review of Cultural Anthropology	6. 最初と最後の頁 063 ~ 072
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jrca.19.2_063	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Price Max、Hongo Hitomi	4. 巻 -
2. 論文標題 The Archaeology of Pig Domestication in Eurasia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Archaeological Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10814-019-09142-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ozdemir Kameray, Erdal Yilmaz Selim, Itahashi Yu, Irvine Benjamin	4. 巻 27
2. 論文標題 A multi-faceted approach to weaning practices in a prehistoric population from Ikiztepe, Samsun, Turkey	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Archaeological Science: Reports	6. 最初と最後の頁 101982 ~ 101982
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jasrep.2019.101982	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hongo, H., Arai, S., Takahashi, R., Gundem, C.Y.	4. 巻 15
2. 論文標題 Transition to food production suspended: a remarkable development in the Eastern Upper Tigris Valley, South Anatolia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Documenta Archaeobiologiae	6. 最初と最後の頁 155-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 常木 晃	4. 巻 21
2. 論文標題 西アジア新石器時代のメガサイト再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西アジア考古学	6. 最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久田健一郎	4. 巻 21
2. 論文標題 地質学からみたテル・エル・ケルク遺跡	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西アジア考古学	6. 最初と最後の頁 95-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有村 誠	4. 巻 21
2. 論文標題 PPNB 文化拡散説の検討：ケルク出土石器資料からの一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西アジア考古学	6. 最初と最後の頁 105-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田 修	4. 巻 21
2. 論文標題 レヴァント地方における新石器化プロセスの多様性 黒曜石交易からの視点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西アジア考古学	6. 最初と最後の頁 117-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅 裕	4. 巻 21
2. 論文標題 「農耕牧畜の時代」の狩猟具 新石器時代の尖頭器をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西アジア考古学	6. 最初と最後の頁 125-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅 裕	4. 巻 21
2. 論文標題 北西シリアの新石器時代 筑波大学の西アジア調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西アジア考古学	6. 最初と最後の頁 81-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅 裕、千本真生、石田温美、田代恵美、板橋 悠	4. 巻 -
2. 論文標題 初期定住集落の姿を探る トルコ、ハッサンケイフ・ホユック遺跡第6次調査(2019年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第27回西アジア発掘調査報告会報告集(令和元年度考古学が語る古代オリエント)	6. 最初と最後の頁 44-48
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅 裕	4. 巻 -
2. 論文標題 新石器時代のシンボリズム ハッサンケイフ・ホユック遺跡出土資料を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市文明の本質: 古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2 研究成果報告2019年度	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 常木 晃	4. 巻 -
2. 論文標題 象徴の容器としての土器と石製容器 テル・エル・ケルクの事例に基づいて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市文明の本質: 古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2 研究成果報告2019年度	6. 最初と最後の頁 21-29
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本郷一美	4. 巻 -
2. 論文標題 新石器革命、“Broad spectrum revolution”、定住、栽培化、家畜化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市文明の本質: 古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2 研究成果報告2019年度	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有村 誠	4. 巻 -
2. 論文標題 地中海世界の脱穀機	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2 研究成果報告2019年度	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久田健一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 ハッサンケイフ・ホユック遺跡周辺の地質	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2 研究成果報告2019年度	6. 最初と最後の頁 7-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田 修	4. 巻 -
2. 論文標題 イラク・クルディスタン地方シャカル・テベ遺跡出土石器の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2 研究成果報告2019年度	6. 最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋 悠	4. 巻 -
2. 論文標題 西アジア新石器時代の食物共有と埋葬 人骨の安定同位体比分析による食性復元	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2 研究成果報告2019年度	6. 最初と最後の頁 39-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹野研一	4. 巻 -
2. 論文標題 日本初の皮性小麦品種「発掘のごぼうび(デュラムコムギ)」の収穫後調整方法に関するメモ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2 研究成果報告2019年度	6. 最初と最後の頁 45-50
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 常木 晃	4. 巻 763
2. 論文標題 戦乱の中の文化財の保存・活用 イドリブ博物館のこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 常木晃、渡部展也、安間了、辰巳祐樹、サリ・ジャンモ、ラウ・カリム・サリ	4. 巻 -
2. 論文標題 肥沃な三日月地帯東部の新石器化 イラク・クルディスタン、スレマニ地域チャルモ遺跡の調査(2019年)-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第27回西アジア発掘調査報告会報告集(令和元年度考古学が語る古代オリエント)	6. 最初と最後の頁 9-14
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 本郷一美	4. 巻 73 (10)
2. 論文標題 ヒツジ・ヤギの家畜化(動物考古学における家畜の研究(6))	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 畜産の研究	6. 最初と最後の頁 853-862
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 小高敬寛・前田修・下釜和也・早川裕弐・西秋良宏・N. A. ムハンマド・K. ラシード	4. 巻 -
2. 論文標題 新石器化と都市化のはざま イラク・クルディスタン、シャカル・テベ遺跡の第1次発掘調査調査(2019年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第27回西アジア発掘調査報告会報告集(令和元年度考古学が語る古代オリエント)	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Makoto Arimura, Artur Petrosyan, Dmitri Arakelyan, Samvel Nahapetyan and Boris Gasparyan	4. 巻 12(1)
2. 論文標題 A preliminary report on the 2015 and 2017 field seasons at the Lernagog-1 site in Armenia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Aramazd	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Artur Petrosyan, Makoto Arimura and Boris Gasparyan	4. 巻 12(1)
2. 論文標題 Some notes on lithic materials from Tsaghkunk, a Neolithic-Chalcolithic site in the Ararat plain	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Aramazd	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Arimura Makoto	4. 巻 -
2. 論文標題 Last PPNB Blade Maker in the Pottery Neolithic at Tell Ain el-Kerkh, Northwest Syria: The Demise of PPNB-type Bidirectional Blade Technology	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Decades in Deserts. Essays on Near Eastern Archaeology in honour of Sumio Fujii	6. 最初と最後の頁 191-204
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有村誠	4. 巻 11
2. 論文標題 キプロス島に移住した新石器集団の起源 移住は考古資料で証明できるか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 海と考古学	6. 最初と最後の頁 73-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishiaki Y., Maeda O., Kannari T., Nagai M., Healey E., Guliyev F., Campbell S.	4. 巻 online
2. 論文標題 Obsidian provenance analyses at Goytepe, Azerbaijan: Implications for understanding Neolithic socioeconomies in the southern Caucasus	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Archaeometry	6. 最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/arcn.12457	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Osamu Maeda	4. 巻 -
2. 論文標題 Stone balls from Salat Cami Yani and Hasankeyf Hoyuk, Neolithic sites on the upper Tigris	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Decades in Deserts: Essays on Western Asian Archaeology in Honor of Sumio Fujii	6. 最初と最後の頁 261-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matthews, R., A. Richardson O. Maeda	4. 巻 -
2. 論文標題 Behind all those Stones: Activity and Society in the Pre-Pottery Neolithic of the Eastern Fertile Crescent	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 10th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East, Volume 2	6. 最初と最後の頁 377-390
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Akira Tsuneki	4. 巻 -
2. 論文標題 Revisiting the Turkaka Site in Slemani, Iraqi-Kurdistan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Decades in Deserts: Essays on Western Asian Archaeology in Honor of Sumio Fujii	6. 最初と最後の頁 243-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsuneki, A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Tell el-Kerkh, A Neolithic mega site in the province of Idlib	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Archaeological Explorations in Syria 2000-2011, Proceedings of ISCACH-Beirut 2015	6. 最初と最後の頁 267-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Itahashi Yu, Erdal Yilmaz Selim, Tekin Halil, Omar Lubna, Miyake Yutaka, Chikaraishi Yoshito, Ohkouchi Naohiko, Yoneda Minoru	4. 巻 168
2. 論文標題 Amino acid 15N analysis reveals change in the importance of freshwater resources between the hunter-gatherer and farmer in the Neolithic upper Tigris	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 American Journal of Physical Anthropology	6. 最初と最後の頁 676 ~ 686
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ajpa.23783	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ulucam, A. and Y. Miyake	4. 巻 -
2. 論文標題 Hasankeyf Hoyuk kazisi	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Batman Muzesi Ilisu Baraji HES Projesi Arkeolojik Kazilari	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ulucan, A. and Y. Miyake	4. 巻 -
2. 論文標題 Excavations at Hasankeyf Hoyuk, southeast Anatolia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Batman Museum the Ilisu Dam HES Project Excavations	6. 最初と最後の頁 33-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 本郷一美	4. 巻 -
2. 論文標題 家畜化は肉食に貢献したかー狩猟から牧畜への肉食行為の変化ー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 肉食行為の研究	6. 最初と最後の頁 178-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本郷一美	4. 巻 144
2. 論文標題 西アジアー動物考古学による家畜化過程に関する研究の進展	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 69-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計43件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 18件)

1. 発表者名 Jammo, S., Tsuneki, A. and Watanabe, N.
2. 発表標題 The 3D documentation project of endangered cultural heritage: Ancient villages of northern Syria.
3. 学会等名 12th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Casanova, E., Davoudi, H., Zazzo, A., Boco, A. Bernbeck, R., Pollack, S. Tsuneki, A., Ghafoori, O.O.B., Nokandeh, J., and Mashkour, M.
2. 発表標題 Human subsistence in Iranian prehistory revealed through lipid residue analysis in pottery vessels
3. 学会等名 28th Annual Meeting of the European Association of Archaeologists (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 常木 晃, 板橋 悠, 渡部 展也, 安間 了, 宮田 佳樹, 若狭 幸, サーリ ジャンモ, サーベル・アハマド サーベル
2. 発表標題 肥沃な三日月地帯東部の新石器化 –イラク・クルディスタン、スレマニ地域チャルモ遺跡の調査(2021)–
3. 学会等名 第29回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 板橋悠
2. 発表標題 体組織の同位体分析でみるヒトの食の一万年
3. 学会等名 第75回 日本人類学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 E. Healy, S. Campbell & O. Maeda
2. 発表標題 Obsidian in the Near East: New Challenges and Future Directions
3. 学会等名 International Obsidian Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三宅 裕
2. 発表標題 西アジアにおける複雑な狩猟採集民社会
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第26回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yutaka Miyake
2. 発表標題 The earliest sedentary settlement in the upper Tigris: Hasankeyf Hoyuk and its significance
3. 学会等名 Revisiting the Hilly Flanks: The epipaleolithic and Neolithic periods in the eastern Fertile Crescent (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三宅 裕
2. 発表標題 ティグリス川上流域の新石器時代 - ハッサンケイフ・ホユック遺跡とウルス・ダム水没地域の調査 -
3. 学会等名 第29回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 板橋 悠、ベンジャミン アーバイン、カメライ オズデミル、ユルマズ セリム エルダル
2. 発表標題 アナトリアにおける授乳習慣の変化の検討
3. 学会等名 日本西アジア考古学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板橋 悠
2. 発表標題 【田口賞受賞講演】先史時代人骨の化合物レベル同位体分析により古代文明以前の社会を探る
3. 学会等名 日本有機地球化学会 若手・学生オンライン研究発表会2020 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小高敬寛・前田修・下釜和也・早川裕弐・西秋良宏・N. A. ムハンマド・K. ラシード
2. 発表標題 新石器化と都市化のはざまーイラク・クルディスタン、シャフリゾール平原の先史遺跡調査 (2019~20年)ー
3. 学会等名 第28回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三宅 裕
2. 発表標題 初期定住集落の姿を探るートルコ、ハッサンケイフ・ホユックにおける発掘調査
3. 学会等名 第28回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yutaka Miyake
2. 発表標題 Complex hunter-gatherers in the Upper Tigris: Latest discoveries at Hasankeyf Hoyuk, southeast Anatolia
3. 学会等名 Neolithic Anatolia: Recent Investigations in Southeast Turkey and the Neighboring Regions (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yutaka Miyake
2. 発表標題 Yukari Dicle Havzisindeki İlk Yerlesik Yerlesmesi: Hasankeyf Hoyuk ve Onun Onemi
3. 学会等名 3. Uluslararası Ilisu Baraji ve HES Projesi Sempozyumu (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本郷一美
2. 発表標題 「肥沃な三日月弧」北部における家畜飼育の開始と周辺地域への伝播
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第24回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田 修
2. 発表標題 初期農耕社会と気候変動のインパクト
3. 学会等名 日本西アジア考古学会公開シンポジウム「気候変動と古代西アジア - 古気候から探る文化・文明の興亡 - 」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Osamu Maeda
2. 発表標題 Change and continuity in the lithic industry of Hasankeyf Hoyuk a PPNA huntergatherer site on the upper Tigris.
3. 学会等名 The 9th International Conference on the PPN Chipped and Ground Stone Industries of the Near East (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 H. Elizabeth, S. Campbell and O. Maeda
2. 発表標題 Big data! Obsidian in the Levant
3. 学会等名 The 9th International Conference on the PPN Chipped and Ground Stone Industries of the Near East (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 M. Rose, T. Carter and O. Maeda
2. 発表標題 Hasankeyf Hoyuk: preliminary results of the geochemical sourcing of obsidian from a southeastern Anatolian PPNA site
3. 学会等名 The 9th International Conference on the PPN Chipped and Ground Stone Industries of the Near East (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田 修
2. 発表標題 西アジアの黒曜石交易と石器文化
3. 学会等名 日本西アジア考古学会台24回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三宅 裕
2. 発表標題 アナトリアからみる北西シリアの新石器時代
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第24回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹野研一
2. 発表標題 テル・エル・ケルク遺跡の考古植物調査から始まった小麦新品種の開発
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第24回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 常木 晃
2. 発表標題 新石器時代のメガ・サイトとしてのテル・エル・ケルク遺跡
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第24回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久田健一郎
2. 発表標題 石器と珪質岩ー石器素材理解への地質学的アプローチー
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第24回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 有村 誠
2. 発表標題 テル・エル・ケルク遺跡からみた北西シリアの新石器化 - 石器製作を中心に -
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第24回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板橋 悠
2. 発表標題 人骨の同位体比分析による西アジア新石器時代の食物消費単位・世帯構成の検討
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第24回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板橋 悠
2. 発表標題 「ヒトと動物の食性復元に基づく家畜出現と食糧生産経済への転換の考察」
3. 学会等名 第73回日本人類学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto Arimura
2. 発表標題 What are the differences between the Mesolithic and Neolithic sites in Armenia? A comparison of the chipped stone tools from Lernagog and Masis Blur'
3. 学会等名 The 9th International Conference on the PPN Chipped and Ground Stone Industries of the Near East (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto Arimura
2. 発表標題 Cave occupations from the Mesolithic to the Chalcolithic Period in Armenia
3. 学会等名 International Conference Dedicated to the 35th Anniversary of the Speleological Center of Armenia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto Arimura
2. 発表標題 Mesolithic Backgrounds for the Neolithisation of the South Caucasus
3. 学会等名 Early Farming Societies of the Southern Caucasus - 10 Years of Archaeological Discoveries of Japanese and French Expeditions (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Tsuneki
2. 発表標題 From farming societies to urban civilization: A case of ancient West Asia
3. 学会等名 Fortification and Urbanization: The First Dialogue between Ancient Civilizations (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Tsuneki
2. 発表標題 Containers for spirit: a view from Tell el-Kerkh
3. 学会等名 Thinking Inside The Box: Containers in Neolithic Western Asia (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有村 誠
2. 発表標題 アルメニアの完新世初頭遺跡と新石器遺跡は何が異なるのか? : 打製石器による比較
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第23回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 有村誠、大沼柊平
2. 発表標題 アルメニアにおける先史文化の系譜を探る アルマヴィル地域における発掘調査(2018年)
3. 学会等名 第26回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田 修
2. 発表標題 クルディスタン原新石器時代における押圧剥離石刃製作の開始について
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maeda, O., S. Campbell, E. Healey
2. 発表標題 Obsidian in the Levant: New provenance studies
3. 学会等名 The 24th Annual Meeting of the European Association of Archaeologists "Reflecting Futures" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Price, M. and H. Hongo
2. 発表標題 Examining the process of early pig management and morphological change in the Tigris River Valley
3. 学会等名 13th International Conference of ICAZ (International Congress of Archaeozoology) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Eda, M., Hongo, H., Arai, S. & Takahashi, R.
2. 発表標題 Avian resource exploitation in Neolithic Hasankeyf Hoyuk, Turkey: Bustards for feather and pheasants for meat
3. 学会等名 13th International Conference of ICAZ (International Congress of Archaeozoology) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前田 修
2. 発表標題 石器の加熱処理にみる新石器時代の技術運用
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第23回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tsuneki, A.
2. 発表標題 How are the Syrian archaeology important for the world history
3. 学会等名 Saving Syrian Cultural Heritage for the Next Generation (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tsuneki, A.
2. 発表標題 Importance of the Near Eastern archaeology
3. 学会等名 Three days' workshop Importance of the Near Eastern Archaeology for the Next Generation (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三宅 裕
2. 発表標題 石器のシンボリズム：新石器時代の尖頭器をめぐって
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第23回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三宅 裕
2. 発表標題 「定住狩猟採集民」の世界－西アジアの新石器時代から見えてくるもの－
3. 学会等名 掘るしん in し の い 2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 Tsuneki, A., Hironaga, N. and Jammo, S. (eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Archaeopress Publishing LTD	5. 総ページ数 404
3. 書名 The Neolithic Cemetery at Tell el-Kerkh	

1. 著者名 Makoto Arimura	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Archaeopress	5. 総ページ数 388
3. 書名 The Neolithic Lithic Industry at Tell Ain El-kerkh. Excavation Reports of Tell El-kerkh, Northwestern Syria 1.	

1. 著者名 Cucchi, T., Domont, A., Harbers, H., Leduc, C., Guidez, A., Bridault, A., Hongo, H., Price, M., Peters, J., Briois, F., Guilaine, J., and Vigne, J.-D.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 CNRS Editions	5. 総ページ数 -
3. 書名 Klimonas	

1. 著者名 Matthews, R., Richardson, A., Maeda, O.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Oxbow Books	5. 総ページ数 706
3. 書名 The Early Neolithic of the Eastern Fertile Crescent: Excavations at Bestansur and Shimshara, Iraqi Kurdistan.	

1. 著者名 Maeda, O., Arimura, M.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Astrom Editions	5. 総ページ数 511
3. 書名 Near Eastern Lithic technologies on the move. Interaction and Contexts in Neolithic Traditions	

1. 著者名 Tsuneki, A	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Research Institute of Cultural Properties, Teikyo University	5. 総ページ数 -
3. 書名 Archaeological Research and Preservation of Cultural Heritage in Iran	



1. 著者名 三宅 裕、前田 修、辰巳祐樹、有村 誠、板橋 悠、宮内優子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 六一書房	5. 総ページ数 578
3. 書名 世界と日本の考古学 - オリーブの林と赤い大地 -	

1. 著者名 Tsuneki, A., Ikarashi, A. and Jammo, S.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑波大学西アジア文明研究センター	5. 総ページ数 221
3. 書名 Nash 'at al-Hadarat Suriat fi Eusur ma Qabil al Tarifi. (文明の起源 シリアの先史時代)	

1. 著者名 常木 晃(原作)、五十嵐あゆみ(作画)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 悠書館	5. 総ページ数 221
3. 書名 まんがで読む文明の起源 シリアの先史時代	

1. 著者名 有村 誠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 六一書房	5. 総ページ数 311
3. 書名 日々の考古学 3	

1. 著者名 Tsuneki, A.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 the Preservation for Syrian Cultural Heritage, University of Tsukuba	5. 総ページ数 15
3. 書名 Ahmiyatu al-Athar Alsurieti fi Tarihi al-Alami Suria fi Asour ma Qabul al-Tarih. (How are the Syrian Archaeology Important for the World History, Syria in Prehistory) (in Arabic)	

1. 著者名 Tsuneki, A., Watanabe, and N., Jammo, S.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Research Center for West Asian Civilization, University of Tsukuba	5. 総ページ数 27
3. 書名 Serjilla: A Series of Photogrammetry for Protection of Syrian Cultural Heritage, Ancient Villages of Northern Syria Vol. 3	

〔産業財産権〕

〔その他〕

都市文明の本質 古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究 <a href="https://rowasia.hass.tsukuba.ac.jp/city/">https://rowasia.hass.tsukuba.ac.jp/city/</a>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	丹野 研一  (Tanno Kenichi)  (10419864)	龍谷大学・文学部・准教授    (34316)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	本郷 一美 (Hongo Hitomi) (20303919)	総合研究大学院大学・先導科学研究科・准教授  (12702)	
研究分担者	前田 修 (Maeda Osamu) (20647060)	筑波大学・人文社会系・准教授  (12102)	
研究分担者	常木 晃 (Tsuneki Akira) (70192648)	筑波大学・人文社会系(名誉教授)・名誉教授  (12102)	
研究分担者	板橋 悠 (Itahashi Yu) (80782672)	筑波大学・人文社会系・助教  (12102)	
研究分担者	有村 誠 (Arimura Makoto) (90450212)	東海大学・文学部・教授  (32644)	
研究分担者	下釜 和也 (Shimogama Kazuya) (70580116)	(財)古代オリエント博物館・研究部・研究員  (72601)	削除：2021年1月5日
研究分担者	久田 健一郎 (Hisada Kenichiro) (50156585)	筑波大学・生命環境系・教授  (12102)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Cities and Urbanization in West Asia and Egypt: Shapes, Functions, and Ideology.	開催年 2023年～2023年
--	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
トルコ	イスタンブール大学	チャナッカレ大学	ハジェテペ大学	他5機関
イラク	スレイマニエ文化財総局			
英国	マンチェスター大学			